



# ふれあい西本郷小

令和元年度  
2月号

横浜市立西本郷小学校 学校だより

令和2年1月31日(金)

一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本小の子  
キャッチフレーズ： あいさついっぱい みんながえがお 西本小



思いを込めて

副校長 谷田全司

B棟裏の梅も、1月の下旬には咲き始めました。暗くなる時間が少しずつ遅くなり、春が一步一步近づいているのを感じます。朝夕、通勤のとき、いたち川沿いを通るのですが、あまり見ない鳥がいるのを先日気づきました。カモぐらいの大きさで、体は黒と灰色、くちばしから額にかけてのみ白色、というモノトーンのおしゃれな感じの鳥で、調べてみると「おおばん」という名の鳥でした。冬は寒い地方から、渡ってくるそうで、通常は、本州以南で冬を越すことが多いようです。このところ暖かい日が多いので、いたち川で冬を越すのでしょうか。少し足を止めると、その他にも、コサギ、カワウ、カモ、カワセミなど、たくさんの野鳥を見ることができます。



さて、1月末まで、本校で書き初め展が開かれました。「書き初め」は古来、宮中行事に始まり、寺子屋から学校など、教育の場で継承されている伝統行事の一つです。廊下に貼られた作品を見ていると、1年生は「お正月」、2年生は「新しい年」とペンを使って紙に大きな字で力強く書いている作品が多く、3年生は「生きる力」という言葉を命毛（筆先）の入れ方や字と字の間を空け方に気をつけ、初めて毛筆で書いた喜びが字に表れていました。4年生は「元気な子」・5年生は「美しい空」・6年生は「希望の朝」と「はね」や「はらい」に気をつけ、のびのびと書き、字形や縦のバランスに気をつけるなど、技能的な高まりを見ることができました。

国語の授業の「書写」では、文字の組み立て方を理解し、形を整えて書いたり、仮名と漢字の大きさや配列に注意したりしながら書きますが、書き初めでは、書写の授業での基本的なところをおさえながら、その文字に気持ち（感情）を込めて書くことに大きな特徴があります。子どもたちはそのことをよく理解し、考えながら作品を完成させました。「一所懸命に書いている」、「伸び伸び書いている」という見方だけでなく、その言葉にどんな気持ちが込められているかなど、書いた子どもたちの顔を思い浮かべ、共感しながら楽しく鑑賞することができました。

相手意識や目的意識をもつことで、学習は深まります。これからも、いろいろな学習の場面で自分の思いや考えを深め、よりよい学習を積み重ねる西本郷小学校の子どもたちが、自分の思い（願い）を実現していくことを願っています。

## 体育館にAEDを設置しました

1月23日（木）に体育館玄関近くに、新しくAEDを設置しました。  
A棟昇降口に設置していたものも、新しいものに交換いたしました。

学校開放や地域行事などにおいて、緊急時にお使いください。

